

第28回 北九州市環境首都総合交通戦略推進連絡会 議事録

日 時 令和6年8月27日(火) 13:30~15:30
場 所 北九州市役所(本庁舎) 会議室
出席者 連絡会委員19名(内、代理3名)
議 事 北九州市地域公共交通計画について

【議事要旨(主な意見など)】

- 1 連絡会規約の改定について (資料1)
 - ・ 異議なし
- 2 令和5年度事業報告および令和6年度事業計画(案)について (資料2)
 - ・ 異議なし
- 3 令和5年度公共交通利用促進施策について (資料3)
 - ・ 令和5年度に作成した北九州市公共交通マップは、利用者へ情報を適時適切に渡すことが重要。また、小倉では小倉地区の拡大版の地図を掲示するなど、実際に利用する人が利用しやすいように掲示してはどうか。
 - ・ 複数の交通事業者を巻き込んで実施する施策は公共しかできない。例えば利用料金を下げた場合に潜在需要がどの程度あるかモデルを作って、実験して感度分析を行い、いろいろな施策をやったときにどういう動きになるかを予測し、総合交通戦略として勝算があるのか少しでも分ればと良いと思う。
 - ・ 地域公共交通市内1日無料デーの経済効果は、資料に記載された想定金額以上のものがあつたと感じる。公共交通機関の利用者が多かっただけではなく、観光・商業施設の利用者も多かつたことから、目的地となる観光・商業施設などと連携することで、利用者の交通費用を分担するという施策も可能となるかもしれない。
 - ・ 地域公共交通市内1日無料デーでは、公共交通機関の利用料金を下げることで、観光・商業施設の利用者も増加することが証明された。交通事業者のみが利用料金を下げるのではなく、今回恩恵を受けた観光・商業施設などが、まちの活性化につながるカンフル剤となるような取り組み(クーポンの配布など)を行えば、みんながWIN・WINになるという証拠になった。

- ・ 子供を対象にした利用促進策を行うことで、幼少期から公共交通機関に慣れ親しんでもらうという機会となったことに加えて、将来、大人になったときも公共交通機関を利用するというきっかけにもつながる。
- ・ 子供がマイカーに乗って移動すると他人と接することがなく、社会との関わりがない。公共交通機関を利用することで子供にとってはお年寄りに席を譲る、窓から外を見るときは靴を脱ぐなどといった、人に迷惑をかけてはいけないという振る舞いを学習できる。公共交通機関は移動手段という側面だけでなく、子供のころから公共交通機関を利用してマナーを教えることで、周囲の人に思いやりを持つ子に育つという側面も持っている。街を良くしていく、環境問題も学ぶという視点で公共交通の利用促進に取り組んでいただけるとよい。

4 各施策のフォローアップについて (資料4)

- ・ 施策20の「バリアフリー化の推進」について、障害の特性はいろいろとあって、身体障害者に対してはハード対策を行ってもらっている。知的障害者、コミュニケーションが苦手な人、公共交通機関で座席が空いてないとパニックを起こしたりする人もいるので、心のバリアフリーも必要となってきている。
- ・ 車いすの方が公共交通機関を利用している状況を見かけることが多くなってきたが、運転手の方が素早く対応している。運転手にバリアフリーへの対応が浸透していると思うが、最近ではベビーカーなど子育て世代の利用者も多くなっている。

5 全般的な意見

- ・ バスを減便する理由は利用者が少ないためとのことであるが、バスの便数が少ないので、車が無いと移動ができない。市バスの便数を増加すれば利用者が増えると思う。
- ・ 交通事業者はかなり経営努力をしているがやむを得ず廃止や減便する結果となっているので、歯止めをかけることが必要。
- ・ やむを得ずバス路線が廃止されたエリアでは、おでかけ交通や乗り合いタクシーといった交通サービスを提供している。また、乗車人数によっては小型バスを利用するなど、地域の状況に応じた交通サービスが必要。
- ・ 移動しやすい街を維持するために、どういう交通デザインが作れるのか検討を進める時期に来ている。バスだけでは全ての交通をカバーできないので、交通事業者同士で議論しながら一緒に課題解決に向かっていくことが必要。

- ・ 利用者が少ないエリアの交通サービスをどう守っていくか、地域の方と話すことが必要。
- ・ デマンドタクシーを利用することで、どの程度便利であるか、どこにハードルがあるのかなどが分かるので、一般の方が体験する企画を行っても良い。